

現場見学会に住民29人招く

熊崎川砂防堰堤工事で

と組
島藤
広加

安芸区矢野東で施工中の二級河川矢野川水系熊崎川災害関連緊急砂防工事(その2)の砂防堰堤本体工や取付水路工などが完成したことを受け、広島県と施工業者の加藤組は9月上旬、地域住民を対象とした現場見学会を開催。29人が参加し、間近で見る堰堤の迫力やドローンからの飛行映像などに歓声を上げた。

防堰堤は、西日本豪雨災害などを踏まえた災害関連緊急砂防事業として計画された高さ12・7m、延長51m、コンクリート量3458m³の不透過型砂防堰堤。

西日本豪雨災害と同規模の土砂を受け止めることができるほか、土砂が満杯になったあとでも大出水時は一時的に土砂を貯めることが可能。さらにその後、自然に土砂が流

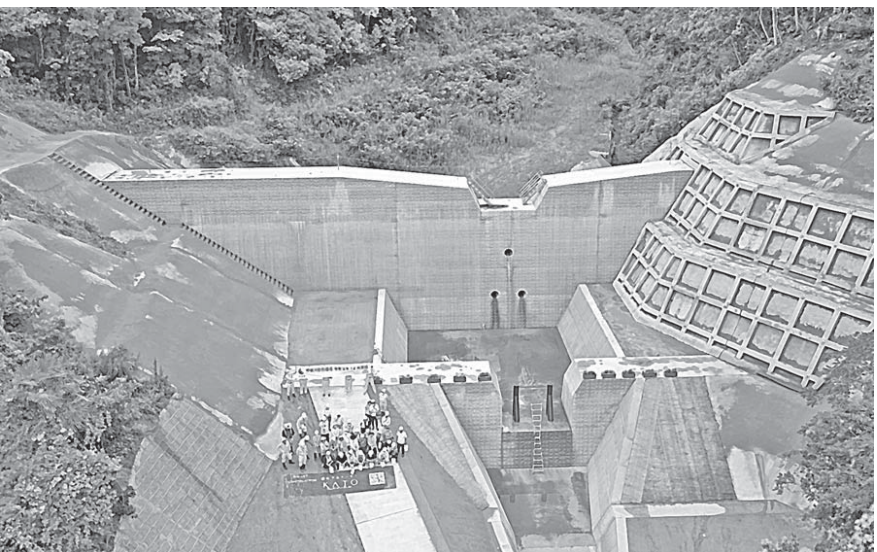
下することで繰り返し機能を発揮し、土砂が堆積した状態でも水の流れを緩め、山腹の崩壊を防ぐなどの効果があるという。

見学会では、西部建設事務所災害関連緊急対策チーム第2課の木山修一課長があいさつしたのち、砂防堰堤の全景や整備効果、完成までの流れなどをドローンによる上空からの映像とパワーポイントで説明。

本来は堰堤に上がってもらうのを醍醐味としているが、この日の見学会では高齢者が多かったため安全面を考慮して参加者はテント待機とし、現場代理人の下田龍一氏がネットワークカメラを装着して前庭工から堰堤天端まで歩き、その映像をテント内モニターにリアルタイムで中継した。

その後、ドローンによる上空からの記念撮影なども行い、参加者らは「近くで見ると堰堤がすごく綺麗でびっくりした」「足が悪くてなかなか見に来られない。見学会の開催は嬉しかった」など喜んでいった。

今後は、工事用道路の撤去・復旧などを行い、2023年3月に工事を完了する予定。監理技術者の山戸豪氏は、「工事中は24時間雨量198mmの豪雨で施工箇所が浸かるなど大変だったが、やっとの思いで完成できた。地元でないわれわれに地域住民の方々は非常に協力的で親切に接してくれた。住民の皆様とともに作り上げた堰堤だと思ふ」と話していた。



完成した砂防堰堤



ドローンからの記念撮影